

福祉サービス第三者評価結果報告書（2021 年度）

2022 年 3 月 28 日

社会福祉法人京都市社会福祉協議会

養正児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F

評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団

（東京都福祉サービス評価第三者評価機関／機構 12-215）

電話番号 03-3486-5141

代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	野澤 秀之	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1801073
	②	敷村 一元	児童健全育成推進財団 第三者評価室 所属評価者
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	養正児童館		
施設連絡先	所在地	〒603-8073 京都府京都市左京区田中玄京町 30	
	電話番号	075-722-6424	
施設代表者氏名	館長 北原 ひとみ		
契約日	2021 年 1 月 20 日		
自己評価票回答期間	2021 年 5 月 28 日～2021 年 6 月 28 日		館長・事務局回答項目
職員調査票回答期間	2021 年 10 月 18 日～2021 年 11 月 1 日		職員回答項目
訪問調査日	2021 年 12 月 15 日		

京都市養正児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1 事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している		
1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している		○
2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている		○
3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている		○
2 経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
1. 経営層は、自らの役割と責任を表明し、職員に伝えている		○
2. 経営層は、経営の改善、児童館活動の質の向上などに向けて取り組むべき方向性を提示し、指導力を発揮している		○
【講評】		
法人は基本構想と児童館担当部の事業計画を明示して、実現に向けた取り組みを行っています		
① 法人は「京都市の社協基本構想」を掲げ、住民主体の地域福祉活動の発展と地域共生社会の実現を唱っています。このことを法人のホームページ、広報誌、パンフレット、などの媒体により広く公表し、利用者への周知を図っています。児童館職員に対しては、その理解を深めるための研修を行い、目指す姿の実現のために自館の業務の中で何をするのかについて具体例を挙げながら話し合う機会を持ちました。児童館事業部としての事業計画を定めています。ホームページ等で公表するほか、各児童館の事業計画立案の基礎になっています。		
② 経営層は、業務権限や責任所在に関する「専決規程」を定めて自らの役割と責任の所在を明示しています。		
③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制を導入しています。各グループに部長を配置し、グループの統括、グループ館長会をスムーズに行う運用としています。このことにより、法人の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換が円滑に行われるようになっています。		

Ⅱ. 経営における社会的責任

1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している		○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる		○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている		○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるよう取り組んでいる		○
2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○
2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある		
1. 利用者と地域との交流を上げるための地域への働きかけを行っている		○
2. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）		○
3. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている		○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）		○
3 地域の関係機関との連携を図っている		
1. 事業所として必要な関係機関との連携が、適切に行われている		○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○
【講評】		
地域の福祉を担う法人として、児童館も社会的責任を果たす事業に取り組んでいます		
<p>① 職員の心得やサービス姿勢を「信条」に明示しています。「職場倫理マニュアル」の策定、「職場倫理チェックシート」を作成し、各館が活用することで倫理意識の維持・向上に努めています。管理職対象のハラスメント研修、職員全体に「障害者差別解消法」研修を行う等、職員保護や法令遵守の推進を図っています。例えばハラスメント対応については、職員の職種に関わらず、採用時に法人の「ハラスメント防止に関する要綱」を明示して職員に周知しています。</p> <p>② 「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示を行っています。また、所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。</p> <p>③ 法人は地域公益活動を最重要事項の一つとしています。各児童館では、他施設との交流、地域の方々にも参画してもらう「児童館まつり」の開催、児童館運営協力会を組織し実施するなど、地域への働きかけを積極的に行う姿勢です。</p> <p>④ 各館におけるボランティアの積極的な受け入れも進めています。その際の「ボランティアの手引き」もひな形を示しています。倫理面、個人情報保護等については、準職員やボランティアにも職員同様に適用することを伝えています。</p> <p>⑤ 京都市地域子育て支援ステーション事業の基幹ステーションとして、地域の子育てに関わる関係機関や団体の中核として、子どもに関わる情報交換や会議、研修、子育て家庭に向けた事業を実施しています。</p>		

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）		
1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
2. 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している		○
3. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対して組織的に解決に取り組んでいる		○
2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる		○
2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる		○

【講評】

苦情解決制度や利用者アンケートなどの方法でニーズや要望を把握し、サービス向上に繋げています

- ① 「苦情解決規則」を整備しています。これに基づいて第三者委員会を設置するとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意見の受け止めに努めています。苦情解決制度の案内は館内に掲示して利用者への周知を図っています。日常的に職員が意見や要望を聞いたときは、施設長に報告して速やかな解決に努め、必要に応じてと法人と共有して対応を図ります。
- ② 毎年「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。アンケートは法人本部で集約し、質問内容は定期的に刷新したり、表現の変更を行ったりしています。また、アンケート結果を児童館に掲示したり、児童館だよりに掲載したりして利用者や地域住民に公表し、透明性の確保とサービス内容の向上に努めています。
- ③ 放課後児童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して個別的な要望や意向を把握しています。また、日常の会話や連絡帳を通して児童館と家庭の共通認識が図られるように努めています。子どもの意見の尊重や子どもの主体的な活動を促す取組みとして、児童館ごとに子ども会議等を実施したり、意見箱を設置したりしています。子どもが意見を出し合って、活動の内容を決めたり、購入する物を決めたりしています。
- ④ 他団体が委託を受けている「中三学習会」や地域の実行委員会が開設している「子ども食堂」に施設提供や職員派遣を行い、地域への公益的役割を果たすことができています。

IV. 計画の策定と着実な実行

1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

1	取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	
1.	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている	○
2.	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている	○
3.	単年度の計画は、担当者・スケジュールの設定などを行い、計画的に取り組んでいる	○
2	多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	
1.	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている	○
2.	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しについて職員が理解している	○
3.	事業計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している	○
4.	事業計画は、利用者に周知され、理解を促している	○
3	着実な計画の実行に取り組んでいる	
1.	計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している	○
2.	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○

2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

1	利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	
1.	リスクマネジメント体制を構築し、事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例の収集と要因分析と対応策の検討・実施が行われている	○
2.	事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○
3.	子どもに施設・遊具の適切な利用方法を伝え、安全に遊べるようにしている	○
4.	子どものケガや病気の応急処置の方法について、研修や訓練に参加している	○

【講評】

社協基本構想を基礎にマニュアルや事業計画が策定され、計画的な運営が行われています

- ① 「京都市の社協基本構想」で今後5年間の児童館の中期計画を示しており、自治体の方針や社会状況に照らして時宜に応じた変更などを検討するようになっていきます。各児童館の単年度の事業計画もこの中期計画を基準にして策定しています。各児童館では、年度末に児童館事業、放課後児童クラブ事業別に年間活動報告を作成して課題を明確にするとともに、次年度の計画策定時に生かしています。
- ② 所管各館で運用している日誌システムは、共有データとして全職員が閲覧できるようになっており、事業計画の実施状況を把握、共有できる仕組みです。また、事業評価や見直しは事業計画の策定とセットで全職員が関わって行います。職員が意見を出し合い、共通の認識の上で、内容の充実や新しい取組みの計画が行われます。
- ③ 法人独自に「事故防止マニュアル」「緊急時の対応に関するマニュアル」「感染症予防対策のためのマニュアル」等、各種危機管理のマニュアルを整備しています。また、定期的な避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。併せて、各館の立地条件にあった「防災マニュアル」を作成するなど、安全な児童館運営のための取組みが計画的に行われています。
- ④ 所管各館で利用児童の特性に応じて、遊具の使用方法や遊ぶ際の決まりなどを工夫しながら示して、安全に遊ぶことができる環境づくりに努めています。同時に、職員は子どもの主体性を損なうことがないように、子どものやりたいことを吸い上げ、できるだけ実現できるようにすることを念頭に、子どもの支援を行っています。

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（期待する職員像、職員育成・評価の考え方）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 採用に対する明確な基準を設けている	<input type="radio"/>	
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/>	
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	<input type="radio"/>	
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/>	
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/>	
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/>	
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
【講評】 採用・評価・研修受講の仕組みを整え、人材確保と育成を進めています		
① 職員採用は、透明性確保のために公募による採用試験を行っています。試験は筆記、小論文、実地試験などを行っており、基準が明確な評定表に基づいて可否判断がされる仕組みを確立しています。 ② 各館で定期的に館長による職員面談を行い、職員一人ひとりから職務への希望、課題、資質向上への意向などを聞き取り、人員配置や人材育成計画等の参考としています。 ③ 法人独自の人事考課制度とOJTの導入により、各館職員の資質・専門性の評価の明確化と効果性の向上を図っています。法人では考課者の資質が重要であることを館長に伝え、館長はその責任を果たすべく、職員ヒアリングに臨んでいます。また、この人事考課は児童館長への昇格に考慮されます。 ④ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ⑤ 各館では職員一人ひとりの研修受講状況を管理するとともに、人材育成の課題や目標を立てています。これに加えて、職員自身の意向も加味し各館の資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。また、新たな採用職員、1年目の職員や初異動の職員は、実務の中で学びを得てもらうため、OJT制度を導入してサポートしています。		

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（期待する職員像、職員育成・評価の考え方）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 採用に対する明確な基準を設けている	<input type="radio"/>	
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/>	
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	<input type="radio"/>	
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/>	
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/>	
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/>	
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
【講評】 採用・評価・研修受講の仕組みを整え、人材確保と育成を進めています		
① 職員採用は、透明性確保のために公募による採用試験を行っています。試験は筆記、小論文、実地試験などを行っており、基準が明確な評定表に基づいて可否判断がされる仕組みを確立しています。 ② 各館で定期的に館長による職員面談を行い、職員一人ひとりから職務への希望、課題、資質向上への意向などを聞き取り、人員配置や人材育成計画等の参考としています。 ③ 法人独自の人事考課制度とOJTの導入により、各館職員の資質・専門性の評価の明確化と効果性の向上を図っています。法人では考課者の資質が重要であることを館長に伝え、館長はその責任を果たすべく、職員ヒアリングに臨んでいます。また、この人事考課は児童館長への昇格に考慮されます。 ④ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ⑤ 各館では職員一人ひとりの研修受講状況を管理するとともに、人材育成の課題や目標を立てています。これに加えて、職員自身の意向も加味し各館の資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。また、新たな採用職員、1年目の職員や初異動の職員は、実務の中で学びを得てもらうため、OJT制度を導入してサポートしています。		

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供

1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している

1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○
2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○
3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○
4. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている	○

【講評】

対象別に広報物を作成して地域の様々な場所に設置するなど、広範囲の周知に努めています。

- ① 対象別の便りを発行しています。「児童館便り」は該当月の児童館事業全般を掲載、「幼児クラブ便り」は乳幼児子育て家庭に向けた活動に特化して活動の予定を掲載しています。このほかに放課後児童クラブ登録児童・家庭専用の「学童クラブ便り」を作成しています。おたよりは写真を多くつけるなどして、わかりやすくレイアウトされています。利用者や地域の方が興味を持ち、必要な情報がわかりやすく入手できる紙面を心がけています。
- ② 「児童館だより」は小学校への全校配布に加え、市政協力委員などの協力により学区内地域に回覧しています。また、ホームページに更新し、いつでも手軽に児童館便りなどの情報に接続できるようにしています。
- ③ 地域の中で情報を適示提供するネットワークの充実に努めています。大型行事など、多くの方の参加を求める場合は近隣の小児科、耳鼻科、郵便局、コンビニエンスストアなどにチラシ設置やポスター掲示を行い、地域の多様な方が目にする機会を作るようにしています。

2 サービスの実施

1 遊びの環境整備を行っている

1. 遊ぶ際に守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている	○
2. 乳幼児から中高生までの子どもすべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	○
3. 子どもが自ら遊びを作り出したり、遊びを選択したりできるようにしている	○
4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	○

【講評】

限られた環境のなかで、少しでも遊べる環境を確保するための工夫をしています。

- ① 児童館の利用に際しての基本的な約束事を細かく決めています。利用する子どもや保護者には、説明をするとともに、やさしい表現で館内に掲示して、ルールを守りつつも自主的な遊びが展開されるような支援を心がけています。乳幼児用玩具は親子が自由に取り出して遊ぶことができるので、写真や説明を掲示したり、片付け場所に写真を張りわかりやすくする工夫をしたりしています。
- ② 0 歳から 18 歳のそれぞれの年齢の居場所としての環境を確保するために、限られたスペースを利用時間に応じて日替わりに環境設定するなど、色々な遊びと、幅広い年齢の受入れに苦心しています。例えば玩具は可動式の遊具棚に整理し、午前中はマットを敷いて乳幼児親子がリラックスできるスペースを作り、午後からは小学生がのんびりと読書などができる空間、中高生世代にはバスケットゴールや卓球などが気軽にできる環境の設定を行うなどです。
- ③ 特に小学生は、児童館の特長でもある異年齢の遊びや活動が日常的に行われていますが、子どもによって遊びたい遊びが異なるため、遊びの内容や場所の割り振りをして安全確保に努めています。

2 子どもの発達過程に応じた支援を行っている

1. 職員が、子どもの発達の一般的な特徴や発達過程について、研修などで学んでいる	○
2. 子ども一人ひとりの発達特性を把握し、発達の個人差を踏まえて支援を行っている	○
3. 子どもへの対応について、個々の事例に関する検討が職員間で行われている	○

	<p>【講評】 子ども一人ひとりのより良い支援のために、関係者が連携して対応する体制があります。</p> <p>① 職員が研修を受講する機会を積極的に設け、特に新人職員には優先的に研修に参加してもらっています。研修後には職員会議等で研修内容の報告を行い、職場内での知識・情報の共有を図っています。</p> <p>② 日常の活動などの様子から気になる児童に関しては、日誌や個別の記録を持ち、日々のミーティングで職員間の情報共有を行うことにより、統一した支援に努めています。また、必要に応じて保護者、小学校、出身保育所などと情報を交換・共有する体制ができており、子どもの生活を一つの連続したものと捉えて、連携して支援する対応ができています。</p> <p>③ 判断や対応に迷うケースは、京都市児童館学童連盟の統合育成の巡回指導員に来館して入ってもらい、ケース会議を通じて話し合うことができます。その内容は職員、学校とも共有して子どものより良い支援に活かしています。</p>														
	<p>3 乳幼児と保護者への対応を行っている</p> <table border="1"> <tr><td>1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している</td><td>○</td></tr> <tr><td>2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している</td><td>○</td></tr> <tr><td>3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している</td><td>○</td></tr> <tr><td>4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている</td><td>○</td></tr> <tr><td>5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している</td><td>○</td></tr> <tr><td>6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる</td><td>○</td></tr> <tr><td>7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 乳幼児子育て家庭の様々なニーズに応えるプログラムを実施し、保護者の仲間づくりと子育て支援をすすめています。</p> <p>① 乳幼児子育て家庭の様々なニーズに応え、保護者同士の交流を図るために、登録制クラブの日、大型遊具で遊べる日、子育て相談ができる日など様々なタイプのプログラムを実施しています。また、弁当持参（コロナ禍は中止）などの利用も可能として、長時間利用できる設定をして保護者の仲間づくりの機会を増やしています。こうしたプログラムを行う中で、職員は気軽に保護者から話しかけられる関係をつくるために積極的に声掛けし、また、必要に応じて保護者間を繋ぐ橋渡し役を担います。</p> <p>② 登録制クラブでは、保護者がクラブの雰囲気慣れ、仲間関係が深まってきた頃に保護者が企画運営する取り組みを取り入れて、他の子どものために企画し、運営する楽しさを味わってもらい取り組みも行っています。また、幼児クラブ出身の保護者が行う「アルバムブックキング」活動、母親クラブ活動などもあり、支援しています。</p> <p>③ 中高生と赤ちゃんとの交流活動に取り組んでいます。運動会を取り入れた触れ合い活動、助産師による話や妊婦体験、幼児クラブ出身の方を講師とした育児経験のお話しなどを実施しています。乳幼児と触れ合ったり、子育て中の母親の話を聞いたりして、中高校生世代の貴重な体験の機会となっています。</p>	1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○	2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○	3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○	4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○	5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○	6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○	7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	○
1. 乳幼児と保護者が、自由に交流できる場を提供している	○														
2. 乳幼児と保護者の交流の促進に配慮している	○														
3. 子どもの発達上の課題について、気軽に相談できるように配慮している	○														
4. 乳幼児活動は、参加者のニーズに基づいたものになっている	○														
5. 保護者が主体的に運営できるように活動を支援している	○														
6. 児童虐待の予防に向けて、保護者の子育てへの不安や課題に対して継続的に支援し、必要に応じて相談機関等につないでいる	○														
7. 乳幼児と中・高校生世代等とのふれあい体験を実施している	○														
	<p>4 小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table border="1"> <tr><td>1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr> <tr><td>2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている</td><td>○</td></tr> <tr><td>3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている</td><td>○</td></tr> <tr><td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr> </table>	1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○	2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○	3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○						
1. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○														
2. 子どもが自ら作り出したり遊びを選択できるように環境を整えている	○														
3. 子どもが自発的・創造的に活動できるよう、対応や働きかけについて職員間で確認しあっている	○														
4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○														

	<p>【講評】 けん玉やぬりえなどのクラブ活動は、昇級や披露の機会を設けて子どもたちのやる気アップに繋がっています。</p> <p>① けん玉クラブ、リズムゴムとびクラブ、ぬりえクラブなど、動静それぞれの数種のクラブ活動があり、個々のレベルに応じた目標に向かって自主的に取り組むことを促しています。級を設けて昇級を目指して頑張ったり、作成した作品を披露する機会を設けたりして、子どもたちのモチベーションアップとチャレンジする気持ちに繋がっています。また、子どもたちで教え合う姿が見られます。</p> <p>② クリスマス会やハロウィンなどの季節の行事では、子どもたちが職員と話し合っってスタッフとして関わっていけるように取り組みを組み立てています。</p> <p>③ 空間や感染症などの制限がある中でも、できる限り子どもたちが自主的な遊びを展開できるように、日常的に支援しています。子どもの遊びの状況を見守り、必要に応じて声をかけて子どもたちのやりたい遊びが実現できるように支えています。しかし、安全に遊ぶための遊びのきまりによって、どうしても叶えられないときもあると感じています。</p>										
5	<p>中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 中・高校生世代も利用できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある</td><td>—</td></tr> <tr> <td>4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 総合支援高等学校と連携し、学生が妊婦体験やお母さんの子育て体験講話などの体験の機会を持っています。</p> <p>① 少数ではありますが、日常的な中高校生世代の利用があります。長期休業中には募っている職員を目標てに来館しておしゃべりや卓球を楽しむ姿があります。居場所があり、そこに来館ができることから支援に繋がることもあり、ソーシャルワーク機能の一端を担っていると思われます。</p> <p>② バレーボールや卓球、バスケットボールができる環境を整えて、中高校生世代が来館しても楽しむことができるようにしています。</p> <p>③ 総合支援高等学校と連携して「中高校生世代と赤ちゃんとの交流活動」や「子育てサロン」に学生に参加してもらっています。学生が乳幼児と触れ合う機会となるとともに、乳幼児保護者にとっても、障害をもつ学生と交流する機会になっています。</p>	1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○	2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○	3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	—	4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○		
1. 中・高校生世代も利用できるようになっている	○										
2. 中・高校生世代の文化活動やスポーツ活動に必要なスペースや備品がある	○										
3. 中・高校生世代が自ら企画する活動がある	—										
4. 思春期の発達特性について、職員が理解するための取り組みが行われている	○										
6	<p>子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている</td><td>—</td></tr> <tr> <td>3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 子どもの年齢や発達程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 様々な行事において、子どもたちの声をアンケートでとっておりイベントに反映しています。</p> <p>① 子どもの権利擁護については、「京都市児童館活動指針」や法人が策定した「職場倫理マニュアル」に拠り、常に意識して活動しています。「職場倫理マニュアル」については、法人共通の研修会があるほか、職場内研修、倫理チェックシートによる自己点検などが行われています。また、職員間でも気になる言動があれば相互に注意しあったり、日々のミーティングで確認したりするなど、子どもの人権に最大限の配慮をして運営をしています。</p> <p>② 子どもが必要なとき、困ったときなどに気軽に職員に話しかけたり、相談したりできるように、日ごろから遊びや声掛けなどを通じて子どもとの信頼関係を築くように注力しています。また、個別の対応が必要なときなど、状況に応じて子どものプライバシーに配慮した場の設定を行います。</p> <p>③ 3年生会議や2年生会議と学年を分けて子どもの意見や要望を聞くなど、子どもの発達の度合いに応じ</p>	1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○	2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	—	3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○	4. 子どもの年齢や発達程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○	5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○
1. 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている	○										
2. 子ども自身が子どもの権利を知る機会が設けられている	—										
3. 子どもが困ったときや悩んだときに、職員に相談できるようになっている	○										
4. 子どもの年齢や発達程度に応じて子どもの意見や気持ちを尊重している	○										
5. 子どもの意見が運営や活動に反映されている	○										

	<p>て意見や気持ちを尊重した対応や行事、日々の生活に反映しています。また、法人共通の利用者アンケートや行事後アンケートから子どもたちの要望や声を拾いあげ、事業計画などに反映するように努めています。</p> <p>④ 子ども自身が「自分たちが持っている権利」について知るということについて、あらたまったことはしていませんが、日々の活動や取組みを通じて、子どもたち自身が意見を述べることの意味、相手の意見を聞く意味、拒否をする権利などに気づくことができるように伝える支援を心がけています。</p>																
7	<p>配慮を要する子ども・家庭への支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取るようになっていく</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>保護者や学校等と連携を密に取り、職員間でも共有し誰もが対応できるようにしています。</p> <p>① 配慮を要する子どもの保護者の思いを丁寧に受け止めて対応を図ることで、相互の信頼関係を築き、安心して預けることができる環境づくりに努めています。子どものお迎え時に放課後児童クラブでの様子を伝えたり、家庭での様子を伺ったりするなど、連携して子どもの支援を行います。また、定期的に個人懇談会を行ってじっくりと話を聞く機会も設けています。必要に応じて個別の時間を作ったり、電話で相談を受けたりするなど、きめ細やかな対応をして、共に育成するという姿勢で臨んでいます。</p> <p>② 障害のある児童の対応は「京都市児童館活動指針」に示されている統合育成の考え方を基本としています。放課後児童クラブで統合育成に取り組んでいることを利用者や地域に発信して、理解と支援を深めていただき、障害のある子どもが安心して過ごすことができる環境が整えられるように努力しています。障害のある子どもには介助者の配置を行い、定期的に児童館職員と介助者との話し合いを持つことで支援のあり方を検討し、常に共通理解と改善を図りながら支援しています。</p> <p>③ 子どもの様子などの中で気になる言動や環境の変化が見受けられた際には、小学校と情報交換を行い、検討・対応を図ります。また、必要に応じて家庭と連絡を取り、家庭も含めた連携の元支援に努めます。ケースによっては関連機関との連携による支援を行ったり、ケース会議にも参加したりする体制です。</p>	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○	2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している	○	3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている	○	4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取るようになっていく	○								
1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○																
2. 障害の有無に関わらず子ども同士がお互いに協力できるような活動内容や環境に配慮している	○																
3. 保護者の不適切な養育や、児童虐待の疑いのある子どもの情報を得たときは、組織として関係機関に連絡し、連携して対応を図っている	○																
4. 子どもの活動の様子から必要があると判断した場合には、家庭と連絡を取るようになっていく	○																
8	<p>地域の子どもの育成環境づくりを行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>児童館を取り巻く地域資源を活用して、子どもが地域と触れ合う機会を創造しています。</p> <p>① 学区社会福祉協議会・民生児童委員協議会が主催する「子育てサロン」を児童館で実施していただき、乳幼児親子相互や地域の方との交流の場、保護者のレスパイトの場になっています。サロンには児童館職員や保育所保育士も参加・協力し、プログラム提供や保護者の相談にのるなどを行っています。また、児童館まつり等の児童館行事にも地域住民の協力が得られるように働きかけて、共に地域の子どもを育てる環境を形成できるように努めています。</p>	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○	2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている	○	3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○	4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている	○	5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている	○	6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている	○	7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある	○	8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している	○
1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○																
2. 地域社会で子どもが安全に過ごせるような取り組みをしている	○																
3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○																
4. 児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けている	○																
5. 児童館の活動と学校の行事等について学校と情報交換を行っている	○																
6. 児童館や学校での子どもの様子等について学校と情報交換を行っている	○																
7. 児童館を出て、地域の児童遊園や公園、子どもが利用できる他の施設等で事業を実施することがある	○																
8. 地域住民やNPO、関係機関等と連携して活動している	○																

	<p>② 民生児童委員、市政協力委員、PTA会長、小学校・中学校などがメンバーの児童館運営協力会が組織されています。児童館の運営、館での子どもの様子、アンケート結果などの報告を行ったり、館運営についてや、子どもの育成環境づくりについて意見交換をしたりしています。メンバーの老人会と連携し、年に2～3回高齢者と子どもの交流活動を行っています。</p> <p>③ 近隣の公園で「公園に行っちゃうデー」を実施したり、近隣の河川公園に遊びに行ったりするなど、地域の屋外資源も活用して遊びの種類や環境を広げています。また、外で活動することにより児童館のPRにも繋がっています。</p>
9	<p>子どもを含めたボランティアの育成と活動支援を行っている</p> <p>1. 子どもの活動にお手伝いやボランティア活動を取り入れ、健全育成活動の一環として実施している</p> <p>2. 乳幼児の保護者の主体的な活動を支援しつつ、ボランティアとして育成している</p> <p>3. 地域住民を受け入れ、ボランティアとして育成している</p> <p>【講評】 学生ボランティアや民生児童委員のプログラム参加など、子どもと地域の関わりが生まれるようボランティア支援を行っています。</p> <p>① 学生の遊びのボランティアを受け入れて、子どもに関わってもらっています。単にお手伝いをしてもらう存在ではなく、職員とは違う学生の視点や意見を大切にして、児童館活動に積極的に関わってもらえるように育成の視点で関わっています。現在のところ継続性が保たれていないことが課題となっています。</p> <p>② 乳幼児プログラムの「工作あそび」や「子育てサロン」活動の際には、地域の民生児童委員が参加し子どもの見守りをしていてくれる中で進められます。このことにより、保護者は安心してプログラムに参加することができています。</p> <p>③ 幼児クラブの元保護者が児童館で「アルバムカフェ」を開催して「スクラップブック教室」などを行っています。幼児クラブを利用しなくなった後の児童館との関わりのかきかけと、現在子育て中保護者のレスパイトの場にもなっています。</p>

3 放課後児童クラブの運営【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】		
1	放課後児童クラブを児童館の持つ機能を生かして運営している	
	1. 放課後児童クラブは市町村の基準条例（最低基準）に基づいて行われている	○
	2. 放課後児童クラブに在籍する子どもと児童館に来館する子どもとが直接交流できるよう活動を工夫している	○
	3. 放課後児童クラブに在籍する子どもと地域の子どもや住民とが直接交流できる機会を設けている	○
2	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	
	1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○
	2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○
	3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
	4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	○
3	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	
	1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○
	2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○
	3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○

【講評】

放課後児童クラブの運営にあたっては、児童館の機能を生かしつつ、各家庭や一人ひとりのニーズに即した対応を心がけています。

- ① 京都市の条例に基づいて放課後児童クラブを適正に運営しています。その一方で児童館としての自由来館対応も適切に実施しており、双方の子どもが直接交流できる機会を意識的に設定しています。児童館祭りなど、地域住民と交流する機会も設けています。
- ② 放課後児童クラブ利用の開始にあたっての基本的ルールや重要事項等については、保護者に対して事前の入会説明会で詳細に説明しています。個々の事情や要望等については、館に提出してもらう書類に記入してもらう他、個別面談でも確認しており、その内容については職員間で情報共有しています。
- ③ 受け入れる児童については保育所や学校とあらかじめ連絡を取り、一人ひとりに丁寧に対応できるようにしています。放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減するために児童館が自由来館としていつでも利用できることを伝えるなど、支援の継続性に配慮しています。

4 特に配慮を要する子ども・家庭の個別状況に応じた対応と記録

1 特に配慮を要する子ども・家庭の情報収集、分析を行い、課題を理解した上で対応を図っている

1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を把握し記録している	○
2. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関と情報を共有し連携して対応している	○
3. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
4. 配慮を要する子ども・家庭の記録は、担当する職員すべてが共有し、活用している	○

【講評】

特に配慮を要する子ども・家庭の支援のために、情報収集や関係機関の会議などに取り組んでいます。

- ① 児童福祉施設としての機能を果たすべく、特に配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等については、日常的に細かな記録を積み上げ、職員会議等で全体状況を確認するよう努めています。
- ② 特に配慮を要する子ども・家庭の支援については、学校・保育所等とケース会議を持つなど情報交換を行い、密に連携を図り取り組んでいます。
- ③ 京都市職員研修会等には参加し研修内容を職員間で共有していますが、児童館の特性を活かしたより高度な福祉実践のために、児童厚生1級指導員資格取得のための研修や全国区の各種研修などにも積極的に職員を参加させることが望まれます。

5 プライバシーの保護等個人の尊厳、権利の尊重

1 子どものプライバシー保護を徹底している

1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○

2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○
3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○

【講評】

個人情報保護規定や職員倫理マニュアルに基づいて、プライバシーの保護など、個人の尊厳・権利を尊重した対応と日ごろの自己点検を行っています。

- ① 法人として「個人情報保護規定」を定めており、子どものプライバシー保護を徹底しています。例えば、関係機関に利用者の個人情報を提供する場合は必ず保護者に同意を得ています。また、着替えの場所や個別指導の方法等については、子どもの羞恥心や自尊心に十分配慮して選択するようにしています。
- ② 日常活動の中で子どもの権利を尊重し、一人ひとりの発達段階を踏まえた丁寧な援助を心掛けています。また、それぞれの子どもや保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援についても職員間で申し合わせています。
- ③ 法人が作成した倫理マニュアルを元に、日々の会議で利用者対応をきめ細かく振り返り、職員間で意見交換し、不適切な対応を無くしていくよう努力しています。

6 事業所業務の標準化

1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		
1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供している児童館活動の標準的な実施方法を明確にして活動を提供している		○
2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○
3. 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している		○
2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		
1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		○
2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○
3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる		○
3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		
1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている		○
2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している		○
3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している		○
4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている		○

【講評】

京都市児童館活動指針を運営の基準とし、日常の業務については各種マニュアルを整備しています。マニュアルの見直しに関する仕組みづくりが今後の課題です。

- ① 児童館活動の標準的な実施方法については「京都市児童館活動指針」に基づいており、計画立案時や何か分からないことが発生した場合等は、常にここに立ち返るようにしています。
- ② 利用者アンケートを通じて利用者の満足度を把握し、サービスの基本事項や手順等の改善に取り組んでいます。
- ③ 職員全体が一定のサービス水準を確保するために、日常的な会議の場でサービスの基本事項や手順等について確認するとともに、研修の機会も多く設け、職場内での伝達研修も実施しています。また、「報連相」を大切にするなど、お互いの意思の疎通が十分に行われるよう心掛けています。

VII. 情報の保護・共有

1 情報の保護・共有に取り組んでいる

1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

- | | |
|---|---|
| 1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している | ○ |
| 2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している | ○ |

2 個人情報とは、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

- | | |
|---|---|
| 1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している | ○ |
| 2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている | ○ |

【講評】

情報の保管・管理は端末にアクセス権を設定するなど徹底して行っています

- ① 個人情報が表示されている書類は、鍵のかかる場所に保管し、必要なときは適時、職員が確認をすることになっています。また、日誌類の記録はデータ化が行われ、子どもの情報をより系統的に記録し、職員も情報の検索が容易になっています。データは厳重に保管管理が図られています。
- ② 個人情報の取り扱いについては、保護者に説明を行い、理解を深めています。また同意書を求めるなど、書面でも確認した上で保管して、その取り扱いを徹底しています。
- ③ 実習生やボランティアには、活動に入る前に個人情報の取扱いや秘密保持について職員から説明して個人情報保護の徹底と子どもの人権の尊重を図るようにしています。

総評

■特に良い点

ポイント1	「中高校生世代と赤ちゃんとの交流活動」を活用した特別支援学校との連携があります。
	特別支援学校（高等部）との連携で、「中高校生世代と赤ちゃんとの交流活動」の一環として連続講座を実施しています。助産師より出産に至る母体の変化や胎児の成長についての話や、妊婦体験などを行っています。 また、出産の体験談を児童館利用児童の保護者がしたり、保育園での交流事業も行ったりしています。
ポイント2	地域の老人会と連携して、子どもと高齢者の交流機会を創造しています。
	地域の老人会「養寿会」との交流が盛んで、夏休みに（コロナ前）うちわづくりを一緒におやつを食べたり、クリスマス会でお年寄りがマジックを披露したりしています。 コロナ禍では、「あったかを届けたい」と、子どもたちが塗り絵を100枚塗ってメッセージを添えて、地域の高齢者に配ったりしました。
ポイント3	児童福祉施設として、子どもや保護者に寄り添った実践を行っています。
	児童福祉施設としての意識を職員間でしっかりと共有しており、コロナ禍の大変な状況の中、様々に工夫を凝らして子どもや保護者に寄り添った実践を行っています。利用者一人ひとりの記録もしっかりと取っており、来館者がどのように過ごしたかは日々データとして蓄積するようにしています。それにより、何か問題が発生した場合等は、検索して過去の状況を振り返ることができるようになっています。

■改善が望まれる点

ポイント1	中・高校生世代にとっても居心地のいい場所となることが期待されます。
	乳幼児から中・高校生世代までを対象としているのが児童館の特性であることを考えると、現状では中・高校生世代を対象とした活動が比較的手薄になっているようです。中・高校生世代を対象とした企画を増やすとともに、児童館のボランティアとして乳幼児や小学生、更には地域のために活動してもらう等の取組を通じて、中・高校生世代にとっても居心地のいい場所となることが期待されます。
ポイント2	地域資源の受け入れなどを積極的に進めることにより、子どもと地域との関わりをさらに深め体験の幅を広げることが期待されます。
	小学校高学年のイベントボランティア体験、学生ボランティアの来館、母親クラブ的な活動などが行われていますが、継続性に課題があると自己評価されています。感染症の広がりの影響で他者との関わりが激減している中だからこそ、安全に留意しながら児童館が積極的に地域資源の活用や、子どもが対面できなくても他者と関わりが持てる機会をつくり、児童館らしい楽しい活動で、子ども自身のボランティア体験や様々な体験の幅を広げていかれることを期待します。